

《履修上の留意事項》公衆衛生学の学習において、専門用語が頻出するので、シラバスを活用して、予習・復習に心がける。疾病の要因を明らかにするために必要な臨床検査と関連する科学的解析方法を実例をもとに概説できるよう心がける。

《担当者名》和田啓爾（副学長）

【概要】

人間を取り巻く種々の社会的、自然的環境要因による健康影響ならびに職業性疾患の発生要因、予防について学ぶ。また、公衆衛生に関連する統計情報や手法を理解する。本講義では1)公衆衛生・健康の概念、2)疫学概念・研究方法、3)感染症の伝播経路と予防、4)ライフスタイルと健康の関係、5)生活環境と健康、6)学校保健、7)労働環境と健康、8)生活環境、9)公害、10)保健行政、学校保健、食品衛生について学習する。

【学修目標】

- 1) 公衆衛生の意義と使命を理解し、科学的根拠に基づき予防医学に貢献する。
- 2) 疫学的研究法を理解し、疾病の発生原因を科学的に解析する。
- 3) 公衆衛生に係る諸活動に必要な知識を習得し、実践できる。
- 4) 地域や国際的観点から、公衆衛生の相違を理解し、予防医学に必要な要因を明らかにする。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	公衆衛生総論 教科書：p1～12	公衆衛生の意義と使命を概説できる。 予防医学を分類し、一次予防～三次予防の特徴を説明し、代表的な例を列挙できる。 公衆衛生上の人口問題について、世界的および日本における問題点を列挙し、概説できる。	和田啓爾
2	疫学 教科書：p13～21	予防医学における疾病の発生原因を列挙し概説できる。疫学的研究方法を列挙し、解析方法を概説できる。	和田啓爾
3	感染症（1） 教科書：p23～33	感染症の原因となる病原体を、科学的に分類し列挙できる。 感染源を列挙し、特徴を概説できる。 感染経路を分類し、特徴を概説できる。	和田啓爾
4	感染症（2） 教科書：p33～44	感染症の感受性及び免疫について概説できる。 流行を左右する要因を列挙し、概説できる。 感染症法について概説できる。 感染症法における分類について概説できる。 感染経路別の予防方法を概説できる。	和田啓爾
5	母子保健 成人保健 老人保健 教科書：p45～64	母子保健の主な指標を列挙し、概説できる。 わが国における成人・老人保健の動向を概説できる。 主な生活習慣病を列挙し、予防対策について概説できる。 老人保健（福祉）の意義と動向を概説できる。 日本における在宅医療の現状と法制度について概説できる。	和田啓爾
6	学校保健 精神保健 教科書：p65～74	学校保健の役割を概説できる。 学校における保健管理について概説できる。 学校における感染症について列挙できる。 主な精神・神経疾患を列挙し、概説できる。 薬物依存・アルコール依存症について現状を概説できる。	和田啓爾
7	生活環境 教科書：p75～89	室内環境（空気環境、異常成分、温熱環境、採光、照明）について概説できる。 関連法規について概説できる。 上水、下水について概説できる。	和田啓爾

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		廃棄物の種類を列挙し、概説できる。 悪臭、環境たばこ煙と受動喫煙について概説できる。	
8	公害 教科書：p91～109	公害について概説できる。 地球規模の環境問題について、例をあげ概説できる。 大気汚染物質を列挙し、概説できる。 水質汚濁の種類を列挙し、概説できる。 土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、食品公害等の代表的な例を列挙し、概説できる。 リスク分析・評価について概説できる。	和田啓爾
9	栄養と食品衛生（1） 教科書：p111～120	食品衛生に係る法制度について概説できる。 食中毒の種類を列挙し、特徴を概説できる（細菌性、ウイルス性、寄生虫性、自然毒、化学性食中毒など）	和田啓爾
10	栄養と食品衛生（2） 教科書：p121～132	各種食中毒の代表的な原因物質を列挙し、原因、中毒症状、予防法、特徴などを概説できる。 細菌性：腸管出血性大腸菌、カンピロバクター、黄色ブドウ球菌、ボツリヌス菌など ウイルス性：ノロウイルス、ウイルス性肝炎など 寄生虫性：アニサキスなど 自然毒：植物性（毒キノコ等）、動物性（フグ等） 食品添加物の用途、安全性、規格基準、表示等を概説できる。	和田啓爾
11	産業保健 教科書：p133～152	労働環境について概説できる。 労働条件（時間、休憩、休日、休暇、疲労）について概説できる。 職業病の種類を列挙し、それぞれ概説できる。（全身性、皮膚・感覚器、呼吸器系、血液・造血臓器系、神経系、消化器系、泌尿・生殖器系等） 特殊な職業病を列挙し、概説できる。（職業がん、農薬中毒、等） 労働衛生管理、健康診断と健康増進、検査室環境について概説できる。	和田啓爾
12	衛生統計（1） 教科書：p153～162	人口静態統計について概説できる。（国勢調査、人口ピラミッド、年齢区分等） 人口動態統計における人口変動の要因を列挙できる。	和田啓爾
13	衛生統計（2） 教科書：p162～175	人口動態統計における人口変動要因について、指標などを用いてそれぞれ概説できる。（出生、死亡、婚姻・離婚、生命表等）。 世界の保健状況について概説できる。（世界人口、死亡統計、感染症の実態） 疾病・障害統計について概説できる。（国民生活基礎調査、患者調査等）	和田啓爾
14	衛生行政 衛生法規と社会保障 教科書：p177～186	衛生行政を列挙し、概説できる。（労働衛生、環境保健、学校保健行政等） 衛生行政と関連する各種法規制度を列挙し、概説できる。（医事法規、薬事法規、保健衛生法規等） 医療制度について概説できる。（医療計画、救急医療、災害医療、へき地医療等）	和田啓爾
15	公衆衛生学と臨床検査 教科書全般と配布プリント	公衆衛生学に関係する検査の種類と意義を概説できる。 公衆衛生学で扱った学修内容と臨床検査の関連性を列挙し、概説できる。	和田啓爾

#### 【授業実施形態】

面接授業

— 授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

#### 【評価方法】

定期試験 100 %

**【教科書】**

照屋浩司 他 著 「最新臨床検査学講座 公衆衛生学」(医歯薬出版株式会社)

**【参考書】**

厚生労働省ホームページ。

環境省ホームページ。

その他、講義中に指示された情報ソース。

**【学修の準備】**

公衆衛生学における専門用語が頻出するため、シラバスと教科書を参考に、専門用語の意味をあらかじめ理解し、授業に臨む。  
(全回)

第2回、第12～13回の講義では、計算式に基づき予防医学や統計の解析を行うので、事前に計算式の表す意味を予習しておく。

第3～4回、第8～10回の講義では、疾病の要因を科学的根拠に基づき解析するため、系統分類して理解できるよう予習する。

第5～7回、第11回、第14回の講義では、公衆衛生関連法規が関連した内容であるため、事前に該当する法規・制度について予習しておく。

**【ディプロマポリシーとの関連性】**

(DP2) 臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。

(DP6) 臨床検査学領域における様々な問題や研究課題に対し、解決に向けた情報の適切な分析、科学的思考と的確な判断ができる能力を身につけている。